

図書館情報学英語プログラム

図書館情報学英語プログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB406	Introduction to Informatics	1	2.0	1・2					The course deals with the foundations of Informatics with the lens of Information Technology area. We will study concepts such as Information, Technology, Modelling, and their impact on science and society. The overall focus of this course is an intensive introduction to the most central technical aspects of Informatics which are required to solve practical real world problems.	英語で授業。 2021年度開講せず。 講義科目
01MB455	Synthetic Seminar on MSc Research a	2	2.0	2	秋ABC	応談		図書館情報学英語プログラム指導教員		演習科目
01MB456	Synthetic Seminar on MSc Research b	2	2.0	2	春ABC	応談		図書館情報学英語プログラム指導教員		演習科目
01MB457	Synthetic Seminar on MSc Research a	2	2.0	2	春ABC	応談		図書館情報学英語プログラム指導教員		演習科目 Only students who have been instructed by their academic advisers should register this course at the counter of the Academic Service Office in person (NOT via the TWINS system).
01MB458	Synthetic Seminar on MSc Research b	2	2.0	2	秋ABC	応談		図書館情報学英語プログラム指導教員		演習科目 Only students who have been instructed by their academic advisers should register this course at the counter of the Academic Service Office in person (NOT via the TWINS system).
01MBA03	インターネットと法	1	2.0	1・2	春AB	月1,2		阪口 哲男, 高良 幸哉, 村井 麻衣子	情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっていく。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業。情報インタラクション専門科目。教職科目 01MBA04, OATW138と同一。 オンライン(オンデマンド型)
01MBA05	図書館とメディアの歴史	1	2.0	1・2	春AB	金5,6		溝上 智恵子, 呑海 沙織, 綿抜 豊昭	本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業。図書館情報学専門科目 01MBC17, OATW151と同一。 その他の実施形態 第1-5回、7-10回はオンライン(オンデマンド型)、第6回のみ対面(7A105)
01MBA06	情報探索と検索	1	2.0	1・2	春AB	月5,6		上保 秀夫, 于 海濤, 松林 麻実子	情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報検索行動のユーザモデル、そして、ユーザの検索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業。情報インタラクション専門科目。教職科目 01MBA07, OATW132と同一。 オンライン(同時双方向型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01MBA09	要求分析とプロジェクト管理	1	2.0	1・2	秋AB	月1,2		鈴木 伸崇, 中井 央	本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目:教職科目 01MBB01, OATW117と同一。 オンライン(オンデマンド型)
01MBA11	コミュニケーションと文化	1	2.0	1・2	春AB	火5,6		歳森 敦, 叶 少瑜	本授業では量的調査による対人コミュニケーションに関する分析について論じる。主として各種のメディア使用が対人コミュニケーションや選択行動へ与える影響について学ぶ。従来のマスメディアから現在のソーシャルメディアまでの各種のメディアの歴史的変遷を踏まえ、それぞれの使用がいかにユーザのアイデンティティ形成や言語使用、コミュニケーションメディア観、対人関係特にソーシャル・サポート・ネットワークの構築に影響するのかなどについて学際的な視点から理解を深め、国内外の既存研究を読み解くための基本的なスキルを習得する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;情報インテラクション専門科目:教職科目 OATW135と同一。 オンライン(同時双方向型)
01MBB02	自然言語処理	1	2.0	1・2	秋AB	金5,6		佐藤 哲司, 関 洋平, 森嶋 厚行	大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコレクティブインテリジェンスや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目:教職科目;学術院共通専門基盤科目 01MBC01, OAS0704と同一。 その他の実施形態 第1-2回はオンライン(オンデマンド型)、第3-7回はオンライン(同時双方向型)、第8-10回はオンライン(オンデマンド型)
01MBB08	音声・音響メディア処理	1	2.0	1・2	春AB	月3,4		真築城 哲也, 寺澤 洋子	生命が持つ情報の側面について学ぶ。具体的には、遺伝情報、生体内の情報処理、脳活動、生体信号等を題材に、様々な現象の計測やモデル化、データの保存、分析、表現等について学ぶ。特に、バイオインフォマティクスで使われる生命情報を扱う手法や、生命をモデル化するためのシステムバイオロジーの考え方、生体信号処理や知覚システムモデリングの手法、生体情報を用いた芸術表現など関連分野の知識について理解することを目的とする。さらに、近年の生物学の研究において、必須となっている情報学の考え方や手法を、関連する生命現象とともに学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目:教職科目 OATW115と同一。 オンライン(同時双方向型)
01MBB10	認知科学特論	1	2.0	1・2	春AB	火5,6		平賀 謙, 李 昇姫, 森田 ひろみ	メディアサイエンスを理解し応用するために不可欠な、人間の感性・認知の働きについて学ぶ。以下の項目に関する講義・ディスカッションを行う:(1) 人間の認知過程、とりわけ理性的な思考や客観性のある解析過程について、計算論的モデル化によるアプローチの基礎を学び、具体的な事例・領域への適用について論じる。(2) インタフェースの成立基盤となる物体認知や運動学習などに關する心理学的知見について学び、その方法論を実践的に学習する。(3) 創造性における感性情報の働きや感性情報評価の概念について解説する。感性、認知、行動と生体情報、パーソナリティなどの融合科学として、デザイン発想、製品開発に応用された事例を学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;メディアサイエンス専門科目 OATW116と同一。 その他の実施形態 第1-7回オンライン(オンデマンド型)、第8-10回オンライン(同時双方向型)
01MBC04	デジタルアーカイビング	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2		時井 真紀, 藤澤 誠	医療分野や気象学、生物学などで得られる計測データ、購買情報等の人々の行動データ、物理現象の解析に用いられるコンピュータシミュレーションから得られる数値データなど、膨大な複雑なデータを人間が理解し、解釈するためにコンピュータグラフィックスを用いた情報可視化技術が必須となってきている。本講義では情報可視化の基礎を学ぶとともに、科学的なデータを可視化するサイエンティフィックビジュアライゼーションと社会的なデータを可視化するインフォメーションビジュアライゼーション、そしてこれらのデータを扱うための3次元ユーザインタフェース(AR)についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;メディアサイエンス専門科目:教職科目 01MBB09, OATW114と同一。 オンライン(オンデマンド型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01MBC06	情報メディア組織化	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6		辻 泰明, 白石 信子, 宮本 聖二	博物館はメディアである。博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている(梅棹1987)と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を鑑みつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;図書館情報学専門科目 01MBC21, OATW156と同一。 オンライン(オンデマンド型)
01MBC07	メタデータ	1	2.0	1・2	春AB	木5,6		高久 雅生, 加藤 誠, 永森 光晴	本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効率的に利用するための組織化について学ぶ。主にWWWやデジタルライブラリー等のネットワークを介して提供・共有される情報資源を対象とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述、分類や識別の手法について学ぶ。また、Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述も対象とし、記述に対するRDF Schema, OWL, SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロジーについても理解を深める。あわせて、電子情報資源を対象としたレコード識別の方法として、適切な識別子を用いた同定、データクリーニング、自動同定の手法について解説する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目;教職科目 01MBC05, OATW157と同一。 オンライン(同時双方向型)
01MBC10	文化的多様性と図書館情報サービス	1	2.0	1・2	秋AB	金3,4	ユニオン講義室	後藤 嘉宏, 照山 絢子	情報や知識は、コミュニティが繋がり、断絶し、ときに衝突し、影響を与え合うインタラクションの中で生み出され、活性化され、伝達される。本講義ではコミュニティ研究の基礎理論を学ぶとともに、エスニシティ、地域、言語等、コミュニティのカテゴリごとにフィードバックなどの質的調査に基づく既存研究をレビューする。さらに公民館、図書館、学校、病院、地域コミュニティなどの場でコミュニティ間にインタラクションの必要な場面が生じた際に、メンバー特性を踏まえ、コミュニティ内の情報や知識がどう発生・受容・変容するかを学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業;情報インタラクション専門科目;教職科目 OATW136と同一。 対面
01MBC11	図書館経営論	1	2.0	1・2	春AB	金3,4		池内 淳, 大庭 一郎, 小泉 公乃	本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみに止まらず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携(官民連携や学社連携も含む)などについて学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目 OATW153と同一。 オンライン(オンデマンド型)
01MBC12	メディア教育	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2		鈴木 佳苗, 辻 慶太	本講義では、生涯学習社会における学校図書館や公共図書館、ネットワーク環境などを含むアナログからデジタルまでの学習環境の在り方、これらの学習環境におけるメディアの利活用や教育等を統合的に扱い、その基盤となる理論やモデル、実践について学ぶ。具体的には、メディアを活用して効果的に情報を収集・判断・創造・発信するために必要とされる「メディアリテラシー」の概念、メディア教育や学習環境の整備の重要性、現状や課題等についての理解を深め、今後の展開等について考察する。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目 01MBC13, OATW158と同一。 オンライン(オンデマンド型)
01MBC14	教育政策と情報専門職	1	2.0	1・2	秋AB	月3,4	7C103	逸村 裕, 松林 麻実子	本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き(学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現)について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度(学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク)について学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目 01MBC15, OATW154と同一。 対面
01MBC15	学術情報基盤論	1	2.0	1・2	秋AB	月3,4	7C103	逸村 裕, 松林 麻実子	本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き(学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現)について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度(学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク)について学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業;図書館情報学専門科目 01MBC14, OATW154と同一。 対面
01MBD51	Practical Seminar A	2	2.0	1	春C	月・木3,4		于 海濤, サーカー サヤン, 照山 絢子, 若林 啓	本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。	毎年、英語で開講;方法的基盤科目 OATW216と同一。 英語で授業。 オンライン(同時双方向型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MBD52	Practical Seminar B	2	2.0	1	秋C	月・木 5, 6		真榮城 哲也, 于海濤, サーカー サヤン, 平賀 謙, 芳鐘 冬樹	近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を旨とした学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。	毎年、英語で開講：方法的基礎科目 OATW214と同一。英語で授業。その他の実施形態 第1-6回オンライン(オンデマンド型)、第7-10回オンライン(同時双方向型)